

素敵な人生 素敵なパートナー

それぞれの生き方 認めあい 支えあう



男女共同参画
推進懇話会
委員

野口 正一

が少し「上」の感覚がある言葉のようです。

以前、熊本市の「婦人会館」は「女性センター」に変更になり、「婦人警官」は「女性警官」に変わってきた経過を考えると、やはり「婦人」とは、男女共同参画の視点から見ると課題が見え隠れする言葉のようです。

しかし、「婦人会」など、まだまだ地域には「婦人」とい

う言葉は生きていますし、即座に「不適切」「差別」ということでもないようです。わたしたちは、生まれてから今日まで、生活の中でさまざまな情報を吸収します。そして、それを自分の知識とするわけですが、怖いのは、その知識が「思い込み」「決め付け」というものに染まり、心の身動きがとれなくなることがあることです。

「女だてらに」「女のくせに」「男は泣いたらいかん」「男は仕事、女は家庭」など、まわりからの固定的な役割分担は、生きていく上で損失をこうむることも考えられます。子育て中心の女性や仕事に生きがいを見出す女性がいてもいいし、泣き虫な男性や家事育児が中心の男性がいても、その人の選択した生き方ならば、みんな認めあい、支えあえばいいのではないのでしょうか。

これからも、懇話会として1人の100歩より100人の1歩を大事にして男女共同参画の考えを市民の方々としっかり考えていきたいと思ひます。

ALTとして
市内各学校で子ども
たちに英語を教えています

ちょっと

CHAT time



Jatin Patel (ジャティン・パテル)
出身地：インド アーメダバード市

Indian Freedom Fighter Subhash Chandra Bose

Subhash Chandra Bose is called Chandra Bose in Japan and Netaji in India. He was born in January, 1897 in Orissa state of India. He played an active role as the president of provisional government of free India cum top commander of Indian National Army.

With his strong wish to free India, he escaped India to Germany via Afghanistan, Soviet Union during World War 2 in 1941. He requested support to Stalin, Mussolini, and Hitler but it was rejected by them.

After that, with Japan's co-operation he traveled to Tokyo, Japan by German submarine U180 from Europe and transferred to Japanese submarine I29 around Madagascar Island in Indian Ocean.

Then he went to Singapore and became the premier of provisional government of free India with assistance of Japan. He also took part in Greater East Asia Conference as an observer.

In 1944, Indian National Army joined Imperial Japanese Army for battle of Imphal.

There was a fighter pilot unit that was trained in Tokyo at Imperial Military Academy and called "Tokyo Boys".

Chandra Bose met the Japanese Prime Minister at that time and was highly regarded.

It is presumed that he died in a plane crash over Taiwan and His ashes are kept in Renkoji temple in Tokyo, but His family still not ready to accept his death.

He could not free India with Japan's support because Japan lost the war but later in 1947 India got independence by Mahatma Gandhi's active role for freedom.

インドの独立運動家スバス・チャンドラ・ボースについてお話しします。

スバス・チャンドラ・ボースは、日本ではチャンドラ・ボース、インドではネタジ(指導者)と呼ばれています。1897年1月、インドのオリッサ州で生まれ、自由インド仮政府国家主席兼インド国民軍最高司令官として活躍していた、インドで最も有名な独立運動家の一人でした。

独立を心から願っていた彼は、第二次世界大戦勃発後の1941年、ひそかにインドを脱出し、アフガニスタン、旧ソ連を経由しナチス政権下のドイツに亡命。インド独立のため、スターリン、ムッソリーニ、ヒトラーに協力を要請しますが、拒否されてしまいます。

その後、日本の協力の下、ドイツ海軍潜水艦U180でヨーロッパを脱出、インド洋のマダガスカル島沖で日本の潜水艦、伊号第二十九に乗り換えて東京に到着しました。

到着後、彼は日本の支援により、日本統治下のシンガポールに渡り、自由インド仮政府首班に就任、大東亜会議にオブザーバーとして参加しました。

また、彼の指導の下、インド国民軍は1944年日本軍とともにインパール作戦に参加しました。

インド国民軍の中には、東京の大日本帝国陸軍学校で戦闘機のパイロットとして訓練を受けた部隊もあり、「トウキョウボーイズ」と呼ばれていました。

チャンドラ・ボースは、当時の日本首相と会談した事もあり、高く評価されていました。

彼の最期は、台湾で飛行機の墜落事故に遭ったこととされ、遺骨は東京にある日蓮宗蓮光寺に眠っているとされていますが、彼の遺族は、彼の死を未だ受け入れていません。

日本の敗戦により、日本と協力してインド独立を彼が勝ち取る事は出来ませんでした。マハトマ ガンディーの活動により1947年に成し遂げられました。

こうし 歴史発見!

第20回

弘生ウソ替祭
開催地 合生(弘生菅原神社)



11月29日、弘生菅原神社では「ウソ替(うそかえ)」と呼ばれる行事が行なわれています。これは、同神社の総代会が毎年開催する行事です。ウソ(鶯・うそ)というのは、天神様(菅原道真公)のお使いとされる幸福をもたらす鳥です。ウソ替は、太宰府天満宮で木彫りのウソを取り替えて福を呼び込む行事として知られていません。今までの悪いことを「うそ」として「福」に取り替える、また、知らず知らずのうちにいつてきた「嘘」を清算し天神様の「誠」に取り替える、つまりとりかえ行事が「鳥換え」となり、多くの天満宮で行なわれています。

たつた人には賞品が用意されています。配られた札と同じ数だけ番号の書かれた駒があり、天井に穴のあいた縦横45cm、高さ30cmほどの、木の箱に入れます。柄の長い錐で穴から駒を突き、出てきた番号と同じ札を持った人が賞品をもらうというやり方です。木箱には「天保元年(1830)」の文字が記されており、現在も使われています。

毎年のウソ替神事には、開運や除災招福を願う氏子が訪れ、神社は賑わいをみせます。



市営 日向住宅入居者募集

- 所在地 幾久富9-1
- 募集戸数 1戸(4DK・54.1㎡)
- 構造 簡易耐火造・平屋建
- 学区 合志小・合志中
- 駐車場 空き地を利用
- 家賃 8,500円~14,100円/月(※所得に応じます)
- 敷金 家賃の3カ月分
- 入居資格
 - ・合志市内に居住している人または勤務先が合志市内の人
 - ・持家を有していないこと
 - ・同居しようとする親族があること
 - ・入居者全員の所得合計が月額20万円以下
 - ・地方税などの滞納がないこと
 - ・申込者と同居親族が暴力団員でない世帯
 - ・連帯保証人が1人必要(入居者と同程度の収入を有する人。ただし、県内居住者)
- 申し込みに必要な書類
 - ・入居申込書(都市計画課備付)※市ホームページでダウンロードできます。
 - ・住民票(続柄記載があるもの、入居者全員記載分)
 - ・平成20年度住民税課税台帳等記載事項証明書(入居者全員分)
- 申込受付期間 11月10日(月)~11月21日(金) 午後4時まで(土・日・祝日は除く)
- 抽選日時・場所 11月27日(木) 午後4時~西合志庁舎3階小会議室②
- 入居予定日 12月16日(火)
- 申し込み・問い合わせ先 都市計画課(西合志庁舎) ☎(242)1104

サンヒマワリあいあい入居者随時募集中!

